

## コンプライアンス推進の取り組み状況について

### 1. 島根原子力発電所点検不備に対する取り組み状況について

#### 再発防止対策の主な実施状況

前回委員会報告以降における再発防止対策の主な取り組み状況は次のとおり。  
なお、全体の実施状況は別紙のとおり。

#### 不適合管理プロセスの改善

平成25年2～4月の不適合判定検討会において、425件の不具合情報を審議し、このうち92件を不適合とした。

審議件数については、システム登録の運用変更を行ったため増加しているが、不適合件数は、比較的少ない状態が続いている。

また、今回はAグレードが1件、Bグレードが2件発生している。

#### 原子力部門の業務運営の仕組み強化

原子力部門戦略会議を定例的に開催し、再発防止対策の進捗状況およびその運用状況について、有効性評価や今後の取組みの方向性を審議した。

また、国の新規制基準（条文案）に対する動向について情報共有を図るとともに、規制基準への対応等重要課題に対する諸施策を検討し、発電所の安全維持・向上に向けた取り組み方針と体制等について審議した。

#### 原子力安全文化醸成活動の推進

##### ・職場の話し合い研修

島根原子力本部・発電所・建設所において、今年度第1回目の話し合い研修を4～5月にかけて実施した。

- ▶ 点検不備問題の教訓を風化させないため、管理者が発生事象や原因等を所員へ説明し、社会からどのように受け止められたか等を振り返った。
- ▶ 話し合い研修について、今回から「地元から寄せられたご意見」「お客さま意識調査の結果」「他社の事故事例」など複数のテーマから選択可能とし、各グループにおいて話し合いたいテーマを決めて実施した。
- ▶ 昨年の行動基準を振り返るとともに、新たなグループ・個人の行動基準を策定。

##### ・役員と発電所・建設所員との意見交換会

副社長および常務取締役が、平成22年度入社社員を対象に「会社に入ってきたこと、苦労していること、会社の仕事でチャレンジしたいこと」をテーマに意見交換会を3月～4月にかけて（計4回）実施した。

・原子力安全文化の日（6月3日）の取り組み

地域社会の視点に立った安全文化の大切さや経営における原子力の重要性を全社で共有することを目的に、「原子力安全文化の日」行事を実施。

- ▶ 島根原子力発電所において、社長、関係役員、グループ・協力会社を含め発電所に勤務する全社員が参加して、社長訓話、グループ行動基準の発表、「誓いの言葉」の唱和、「誓いの鐘」の鐘鳴等を実施。
- ▶ 全社に対しては、社長メッセージを発信するとともに、各職場において、点検不備問題の概要や再発防止対策の取組状況、福島第一原子力発電所事故を踏まえた安全対策について、情報共有・意識共有を図る。

・原子力安全文化有識者会議委員を交えての役員、発電所・建設所員との意見交換会（6月3日）

原子力安全文化有識者会議委員8名を交えて、副社長および常務取締役と発電所・建設所社員12名が、原子力安全に向けた意識・行動などについて意見交換会を実施。

その他（原子力強化プロジェクトの設置期間の延長）

原子力安全文化醸成施策の検討等を行う社長直属の組織「原子力強化プロジェクト」については、平成25年6月を終了目途（設置当初は平成24年6月目途）としていたが、平成26年6月までの1年間を目途に設置期間を延長する。

これまでの取り組みにより再発防止対策は有効に機能しており定着してきているが、プロジェクトの終了については、原子力規制委員会が再発防止対策の実施状況を確認する「特別な保安検査」の終了が前提であり、現時点では「特別な保安検査」の終了時期が不透明であることから、当面プロジェクトの活動を継続することとした。

# 島根原子力発電所点検不備に係る再発防止対策の主な取り組み状況

## 直接的な原因に対する再発防止対策

### 点検計画表不備への対応

点検計画表の修正 (H22年6月末完了)

### 業務手順の改善・明確化, 手順書の見直し

直接原因に係る再発防止対策 (H22年7月末完了)

点検計画の作成・変更, 工事仕様書の作成手順の見直し等, 点検不備に至った業務手順の改善・明確化を実施。

## その他の取り組み

### 点検計画表の継続的見直し

点検計画表における点検方法, 点検頻度等について, 機器の安全重要度, 劣化要因を考慮して, より妥当性の高い内容に継続的に見直し

点検計画表における点検方法, 点検頻度等の継続的見直しを検討するワーキンググループを結成し, 活動中。

### 保守管理活動全体を管理する「統合型保全システム(EAM)」の活用

- ・現在開発中のEAMにより, 紙ベースで管理している膨大なデータをシステムで管理
- ・「原子力強化プロジェクト」は, 発電所と連携して業務プロセスの改善による更なる業務処理の正確性および効率性向上を検討, 実施

2号機の点検計画表データをEAM保守管理データとして整備し, 第17回定期検査(H24/1開始)に向けて, H23/12に本運用を開始。

1号機についても, 点検計画表データをEAM保守管理データとして整備し, H24/10より運用開始。

### 点検時期を超過していた機器の健全性評価

2号機162機器の全てについて健全性の確認を終了(H22.7.27)

1号機349機器の全てについて健全性の確認を終了(H23.1.6)

## 根本的な原因に対する再発防止対策

### 根本的な原因

#### 不適合管理

不適合管理を適切, 確実に行うための仕組みが不足していた。

#### マネジメント

規制要求事項の変更に速やかに対応してマネジメントできる仕組みが十分でなく適切な対応ができなかった。

#### 組織・風土

「報告する文化」「常に問いかける姿勢」が組織として不足していた。

### 原子力品質マネジメントシステムの充実

#### 不適合管理プロセスの改善

不適合管理が適切に行われ, 不適合の判断が限られた箇所決定されること等がないよう, 不適合管理プロセスを改善する。

- 不適合管理を専任で行う担当を設置 (H22.6.29)  
 <活動状況> ・発電所員に対し, 不適合管理の必要性や基準についての教育を実施(H22.7.29~8.2) ・品質保証講演会 (H22.9.16), 不適合判定検討会委員への専門教育 (H22.10.14)
- すべての不具合情報について検討し処置を決定する「不適合判定検討会」の運用を開始(H22.8.1)  
 <活動状況> 不適合と判定した事象全てを半月毎に当社ホームページ上で公開 (H22.9.7開始)

#### 原子力部門の業務運営の仕組み強化(保守管理体制・品質保証体制の再構築)

規制要求の変化に速やかに対応し, 適切にマネジメントできる仕組みを強化する。

- 原子力部門の重要課題を統括する「原子力部門戦略会議」を設置 (H22.7.27)  
 <活動状況> 第1回開催 (H22.7.27) ~ 第59回開催 (H25.5.28)
- 本社, 発電所からなる「原子力安全情報検討会」を設置 (H22.7.30)  
 <活動状況> 第1回開催 (H22.8.13) ~ 第45回開催 (H25.5.27)
- 発電所の統括機能を強化し, 責任体制を明確化するため, 品質保証部・保守部を設置 (H22.9.7), 技術部・発電部を設置 (H23.3.1)

### 原子力安全文化醸成活動の推進

経営における原子力の重要性や地域社会の視点からの安全文化の大切さを全社(関係会社・協力会社を含む)で醸成する活動を推進する。

- 社長直属の組織として「原子力強化プロジェクト」を設置 (H22.6.29)
  - ・職場話し合い研修: H22年度3回実施。H23年度2回実施。H24年度2回実施(行動基準中間振り返り含む)。  
 H25年度は第1回(H25.4.2~5.24)を実施し, グループと個人の行動基準も策定。
  - ・役員と発電所・建設所員との意見交換会( )  
 ( ) 交換会で提案された意見は, 組織として対応を検討し, 検討結果を提案者へフィードバック  
 H22年度8回実施。H23年度6回実施。H24年度はH24.6.4, 7.13, 9.27, 11.12, H25.1.25, 3.27  
 H25年度は4.15, 6.3に実施。
  - ・原子力安全文化醸成研修会: H22年度3回開催。H23年度2回開催。H24年度はH24.9.28, H25.3.6に開催。
  - ・福島支援派遣者座談会を実施し, 社内報に掲載 (H23年度)。
  - ・原子力部門関係者の情報交換の場となる社内SNSを活用 (H22.12~継続中)
- 社外有識者を中心に構成する「原子力安全文化有識者会議」を設置: H22年度4回開催。H23年度2回開催。H24年度はH24.10.1, H25.2.18に開催。
- 地元の方々との対話活動の充実
  - 鹿島町・島根町・橋北地区全戸訪問 (H22年度), 技術系社員による見学会対応 (H22.7~継続中), 地元定例訪問への参加 (H22.7~継続中), 地元行事への参加 (H22.9~継続中), 地元意見の職場内共有 (H22.9~継続中)
  - 原子力の重要性や安全文化の大切さを全社で確認する「原子力安全文化の日」を制定 (H22.6.3) H23.6, H24.6に行事実施。H25.6に発電所で社長訓話, 「誓いの言葉」唱和等を実施するとともに, 全社に対し社長メッセージを発信。
  - コンプライアンス強調月間行事として, 点検不備問題に関する風化防止ビデオの視聴など再発防止に向けた取り組みを実施。(H22.11, H23.11, H24.11)

## 2. コンプライアンス推進施策の主な実施内容について

### 階層別コンプライアンス研修の実施

- ・ 新任ライン長研修（3月）

対象者には集合研修前に事前学習資料を配布し、コンプライアンス推進の重要性や当社の取り組みを再認識させ、集合研修では、事前学習を振り返りながら、事例演習を交えライン管理職としての役割や留意すべき点を講義。

- ・ 新入社員研修（4月）

コンプライアンス・個人情報保護に関する基本的事項を講義。風化防止ビデオ（「土用ダム問題など一連の不適切事案」「島根原子力発電所点検不備問題」）の視聴や簡単な事例演習を交え、コンプライアンス経営推進宣言の「3つの行動」を社員一人ひとりが実践していくことの重要性を強調。

### 所属長業務点検の実施

- ・ 自職場にある問題点や弱点を把握し、不適切な状況が深刻化することのないよう、速やかに改善・見直しを図ることを目的とした所属長の業務点検について、全社共通項目（23項目）に事業本部等の独自項目を追加したチェックリストにより全社の所属長（550名程度）が実施中（5～6月）。
- ・ 今年度は、点検項目を分かりやすくより具体的な内容に改めるとともに、早期の是正措置による業務品質の向上を図る観点から、点検時の評価区分および判断基準を見直した。また、項目によっては、具体的な点検ポイント一覧表を添付するなど、業務点検の実効性を高めるための工夫・改善を行った。

### 保安推進委員会の運営

- ・ 保安推進委員会の下部機構となるマネージャークラスのWGを開催（3月、4月）。各部門で報告した法令違反や手続き不備等2事案への対応状況および再発防止策の実施状況を報告し、他部門への水平展開や保安教育への反映の必要性について意見交換を実施。
- ・ 保安推進委員会を開催（5月）し、平成24年度の保安活動および保安教育について、各事業本部・部門が計画に沿って着実に実施していることを確認した。

以上